



## 目標と指導と評価の一体化

# 定期考査や朝課外を廃止し、 単元シラバスを軸とした授業改善に挑む

## 鹿児島県立与論高校

1分  
で  
分かる軌跡

予測が困難な時代に必要な資質・能力を育むため、目標と指導と評価の一体化を図る鹿児島県立与論高校。育成を目指す資質・能力をどのような授業で育み、どのような方法で評価するのかを生徒と共有する単元シラバスの運用を、全教科・科目で開始。定期考査を廃止して単元テストを実施し、観点別学習状況の評価を授業改善や生徒の学習改善につなげている。さらに、学校に創造的な時間を取り戻すため、朝課外を廃止。従来の常識にとられない改革を推進し、次代を担う若者を育てている。

#定期考査廃止

#単元シラバス・単元テスト

### 学校概要

設立 1967（昭和42）年

形態 全日制／普通科／共学

生徒数 1学年約45人

2022年度卒業生進路実績

国立大は、鹿児島大、琉球大、横浜国立大、都留文科大、北九州市立大、名桜大に8人が合格。私立大は、東洋大、京都産業大、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大、福岡大、鹿児島国際大などに延べ49人が合格。短大・専門学校進学10人、就職1人。



# 変革の背景

## 次代を担う若者を育てるため、 観点別評価の実現を決意

鹿児島県立与論高校がある与論島は、県内でも人口減少が顕著な地域だ。2020年度に同校に着任した甲斐校長は、地域の高校の使命は、生徒一人ひとりの可能性を伸ばしな



校長  
**甲斐 修**  
かい・おさむ  
同校に赴任して4年目。



教務主任  
**浦上 美香**  
うらかみ・みか  
同校に赴任して4年目。国語科。



進路指導主任  
**堀切友弥**  
ほりきり・ともや  
同校に赴任して4年目。英語科。



生徒指導主任  
**石山弘二**  
いしやま・こうじ  
同校に赴任して4年目。数学科。

がら、地域を担う若者を育てることだと考えた。そこで甲斐校長は、22年度からの指導要録に観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の欄が設けられる意義について校内で対話を重ね、学校教育の基盤である授業と評価の改善にいち早く取り組む機運を校内に醸成した。そして、新学習指導要領に基づく観点別評価に、1年前倒しの21年度から全学年



3学年主任  
**田山 慶**  
たやま・けい  
同校に赴任して3年目。保健体育科。

教育課程・評価係  
**石塚真紀子**  
いづか・まきこ  
同校に赴任して3年目。英語科。

2学年主任  
**猶木香奈**  
なつき・かな  
同校に赴任して2年目。「総合的な探究の時間」を担当。家庭科。

1学年担任  
**堀之内拓郎**  
ほりのうち・たくろう  
同校に赴任して2年目。芸術科（音楽）。

図1 単元シラバス（数学Ⅲ・関数）

No.	1	実施時期	4月第4週～	5月第2週	
単元・題材名	第3章 関数	教科・領域	数学	科目 数学Ⅲ	
単位数				5	
この単元で育成する資質・能力 <詳番規準>					
知識・技能	関数・比例	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
・分数量や無理関数の定義を理解し、グラフやその平行移動したグラフをかきことができる。 ・等差数列や合成関数の定義を理解し、それぞれを求めたり、グラフをかきことができる。	・分数量や無理関数の定義をもとに、グラフを利用して方程式や不等式を考察しようとしている。	・分数量や無理関数などの新しい関数や、合成関数、逆関数などの関数の新たな概念について関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。			
学習・授業計画					
種類	学習活動・評価法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	分数量 (問題演習)	・分数量の定義と、分数量のグラフの平行移動を理解し、そのグラフをかきことができる。	好学習 ・分数量の式を適切な形に変形してグラフをかこうとしている。	創造 新しい関数の定義を理解し、関数の方程式や不等式について様々な数値から事象をグラフを利用して考察しようとしている。	好学習 創造 理解 不習
3	無理関数 (問題演習)	・無理関数の定義と、無理関数のグラフの平行移動を理解し、そのグラフをかきことができる。	好学習 ・無理関数を含む不等式の解をグラフを利用して考察しようとしている。	不習	不習
4	逆関数・合成関数 (研)	・逆関数の意味と、それを表	好学習	レポート課題 (70分/1枚) (A4用紙1枚)	
5					
7	単元				
8	単元				
備 考	・単元終了後、レポート（リフレクションシート）提出があります。				
注 意 事 項	(1) 「単元」単に評価を実施します。 (《単元テスト・レポート提出・プレゼンテーション》を、教材によって評価の形態は異なります。) (2) 年間授業計画や単元シラバスを元に、計画的かつ自発的に学習を心掛けてください。 (3) 単元毎に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的な態度」の各観点について40点、40点、20点を満点としたもの及びA・B・Cの3段階で評価し、学期末には各観測の平均を合計した100点満点で成績を算出します。 (《例》A⇔A 85点)				

※学校資料をそのまま掲載。

単元ごとに、どのような方法で資質・能力を評価するのかを、単元シラバスに明記する。単元シラバスと単元テストは各教科内で検討しながら作成するため、教科内のコミュニケーションの活性化にも寄与した。また、他教科の単元シラバスも参考にすることで、教科間連携も進んだ。

「資質・能力をどれだけ育成することができたのかを評価できる授業を実現するために、何を学び、どの観点を、どのような方法で評価するのかを生徒と共有する『単元シラバス』(図1)を作成し、『単元テスト』を通じて観点別評価を行うことで、指導と評価の一体化を図ることを目指しました」(甲斐校長)

「先進事例がないからこそ、目指した生徒へのフィードバックが適上美香先生は振り返る。安の声も上がったと、教務主任の浦上美香先生は振り返る。全国的な挑戦に対して、校内からは不安の声も上がったと、教務主任の浦上美香先生は振り返る。全国的な挑戦に対して、校内からは不安の声も上がったと、教務主任の浦上美香先生は振り返る。」

お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任

す学校の姿をみんなで考えていこう、一つひとつの課題に向き合っていく」と、甲斐校長は訴えました。単元シラバスの作成がスタートしてからも、本校のブランドデザインを職員会議などで何度も配布し、本校が目指すビジョンに立ち返ってシラバスを作成することを求めました

## 変革の一手 ①

### 生徒と教師が目標を 意識する授業に改善

単元シラバスの運用に先立ち、同校では、校訓「好学・創造・親和・不屈」と、学習指導要領で示されている「育成を目指す資質・能力の3つの柱」とのひもづけを行った。そして、各授業で育成を目指す資質・能力が校訓のどれに該当するのかを単元シラバスに記載し、授業が校訓の具現化の場であることを明示した。また、学年・コースごとに各教科の年間指導計画を作成し、1年を通して何を学び、どのような資質・能力を身につけるのかを、生徒が自覚できるようにして、目標と指導と

評価の一体化を図っていた。

単元シラバスの作成が授業改善を推し進めたと、教科を問わず多くの教師が語る。家庭科の猶木香奈先生と芸術科（音楽）の堀之内拓郎先生は、「授業の山場を意識して単元を設計するようになった」と説明する。「それまでは、定期考査を意識して授業の進度を決めていました。単元シラバスを作ることで、どのような資質・能力を育むために、どの課題にどれだけ時間をかけるべきかを第一に考えて授業を組み立てられるようになりました」（猶木先生）

「自分の授業が知識・技能の習得に偏っていたことに気づき、思考力・判断力・表現力を育む時間を単元のどこで設けるのかを考えながら授業を変えていきました。その結果、私が思っていた以上の力を生徒が持っていることに気づくことができました」（堀之内先生）

単元目標に到達できているかを測るのが単元テストだ。単元テストの形式は、教科や単元の内容に応じて、ペーパーテストやパフォーマンステストが採用される。英語科の石塚真紀子先生は、「生徒も単元テスト

を意識して日々の授業に臨むようになった」と、生徒の変化を語る。

「単元シラバスの中で評価の方法を示すようにしたこと、生徒は授業に意欲的に参加するようになりました。私たち教師も、単元テストまでに全員の生徒を観点別評価のB段階に引き上げることが強く意識して、授業に臨むようになりました」

1単元の授業時間は最大で15コマ程度とした。単元終了時には、その単元の評価を成績個票（図2）に入

力し、支援が必要な生徒を単元ごとに確実に発見できるようにした。

単元テストは定期考査と異なり、全クラス一斉に行わないため、先に実施したクラスから問題が漏れてしまつたのではないかと心配する声もあつたが、単元テストが到達度を確認し、その後の学習改善に生かすものであることを生徒たちに周知したところ、心配されたような事態は発生することなく、生徒は誠実に取り組んでいるという。

図2

### 成績個票（3年生・数学Ⅲ）

3年〇組 〇〇 番 氏名 〇〇 〇〇										
単元名	評定	知識・技能 (60)		思考・判断・表現 (40)		主体的に学習に取り組む態度 (20)		評定	欠課時数	実施日
		評定	得点	評定	得点	評定	得点			
① 第3章 関数	A	32	A	37	A	16	85	0	令和5年5月8日	
② 関数の極限	B	25	B	26	B	13	64	1	令和5年5月29日	
③ 関数の極限	A	34	B	31	A	17	82	0	令和5年6月14日	
④ 第5章 微分法	B	29	B	26	B	15	70	0	令和5年6月29日	
⑤										
⑥										
⑦										
⑧										
⑨										
⑩										
⑪										
⑫										
⑬										
⑭										
⑮										
⑯										
⑰										
⑱										
⑲										
⑳										
㉑										
㉒										
㉓										
㉔										
㉕										
㉖										
㉗										
㉘										
㉙										
㉚										
㉛										
㉜										
㉝										
㉞										
㉟										
㊱										
㊲										
㊳										
㊴										
㊵										
㊶										
㊷										
㊸										
㊹										
㊺										
㊻										
㊼										
㊽										
㊾										
㊿										
1 学期 成績	B	30	B	30	B	15	75	1	①～④の成績	
2 学期 成績										
現時点の成績	B	30	B	30	B	15	75	1		

単元テストの結果を記載した成績個票は、単元ごとに生徒に配布。成績が振るわない生徒には、単元終了後に補習を行うが、補習に参加する理由が明確なため、生徒は納得の下、参加しているという。また、単元ごとに生徒の理解度が把握できるため、授業改善も円滑に進んでいる。

**評点推移**

評定基準  
知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の成績は、得意順に応じて次のように表す。

A	B	C
100-80%	79-50%	49-0%

評定の5段階評定は、評点に応じて次のように表す。

5	4	3	2	1
100-80	79-60	59-30	29-	未修得

※学校資料をそのまま掲載。

## 変革の一手②

### ICTの活用と 探究学習の価値向上が進む

単元シラバスの運用は、様々な形で授業改善につながっている。その1つがICTの活用だ。保健体育科の田山慶先生は、思考力や判断力、主体的に学習に取り組む態度を各単元の中でどのように発揮させるかを考えた末に、動作解析アプリを活用した授業を行うようになった。

「アプリを使って自分の課題を見つけ、その課題にグループで協働して取り組む授業を行うようにしたところ、運動が苦手な生徒も、グループのメンバーのために活躍できる場面が増え、主体的に学習に取り組めるようになりました。運動が苦手な生徒が輝けるような授業になったのは、観点別評価を意識して授業を設計するようになったからです」

資質・能力を育成する場として各教科の授業が十分に機能するようになったことで、探究学習の存在感が増してきたと、進路指導主任の堀切

友弥先生は説明する。

「各教科で学んだことを統合的に活用する場面として最適なものが、総合的な探究の時間です。本校の生徒は地域課題に向き合うプロジェクト型の探究学習に取り組んでいます。『授業で身につけた力は地域でも役立つ』ことを実感することで、探究学習にも授業にも自信を持つて取り組むことができるようになりま

す。その自信は、生徒が進路を切り拓く力にもなっています」

## 変革の成果と展望

### 改革を継続し、 成績上位層の伸長を図る

単元シラバスの運用と、定期考査及び朝課外の廃止以降も、各教師の改革は続いている。数学科の石山弘二先生は、主体的に学習に取り組む態度の評価のために、各単元末に単元の学びの振り返りを生徒に書かせ、それを基に面談を行っていた。しかし、生徒1人あたりの評価に時間がかかり過ぎてしまったため、評

価の方法を変えた。

「面談の代わりに、単元の振り返りに加えて、その単元の理解を深めるために発展的に取り組んだことを書かせることにしました。生徒は最初のうちはうまく書けませんでした。現在は数学で学んだことを理科の授業で生かした経験を書く生徒が現れるなど、主体的に学びを発展させようとしていることを感じます」

単元ごとの丁寧な見取りによ

て、成績中・下位層の生徒の底上げが実現した今、次の課題は成績上位層のさらなる伸長だと、同校の教師は認識している。甲斐校長は、改革が形骸化することがないよう、今年度の新任者オリエンテーションで、なぜ目標と指導と評価の一体化が与論高校で求められるのかを、1時間わたって語った。全国に先駆けた改革は、今も全校体制で進化を続けている。

### ベネッセが見た軌跡

## これからの教育を創造する 前例がない変革への挑戦！

私が与論高校を訪問する中で強く印象に残っているのは、「なぜ変革が必要なのか？」という「変革の背景」「目的」を、先生方がご自身のお言葉で語られている姿です。

予測が困難なこれからの時代を生き抜いていくために必要な資質・能力は何か？ それをどのように育成していくのか？ そうした問いについて、対話を通じてそれぞれの先生方が納得感を持ち、学校が一体となって変革に向き合われているように感じました。

だからこそ、「壁にぶつかってしまった時でも前向きに変革に取り組むことができている」というお言葉も非常に印象に残っています。

定期考査廃止という事象の裏にはどのような背景があるのか、何のために変革を行うのか、私も先生方との対話の中で多くの気づきと学びをいただきました。前例がない大きな変革への挑戦だからこそ、担当者として私も全力で支援させていただきます！

(株)ベネッセコーポレーション九州支社  
鹿児島県立与論高校担当 長 義幸



お勧めの分掌

管理職

教務担当

進路担当

担任